

「手指衛生」という言葉をご存じですか？

「手指衛生」とは「手をきれいに」することですが、病院の中の「手指衛生」にはいくつか重要な意味があります。


- 1) 患者さまを危険な病原体から守る
- 2) 病院の職員や院内の環境を介して病原体を広めてしまうことを防ぐ

私たち、下志津病院の職員は、常に適切なタイミングで手指衛生を実施することを心がけています。このパンフレットでは、いつ、なぜ、私たちが手指衛生を行うのかご説明します。

下志津病院のロゴマーク



 : 優しく包み込む両手

 : 人 = 患者さま

 : Shimoshizu の 頭文字

患者さまご自身も 手指衛生を



病院には菌やウイルスなどに感染して具合が悪い患者さまが多くいらっしゃいます。何らかの感染が疑われる患者さまはご自身から他へと広めないために、また感染の症状のない患者さまはご自分を感染から守るため、こまめな手洗いや手指消毒を心がけていただけますと幸いです。「手指衛生」はご自分のためだけでなく、周りの全ての人の健康につながることもあります。

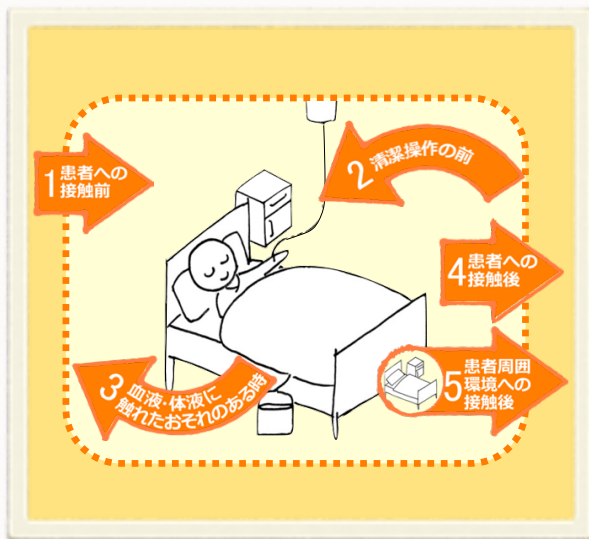
2020年5月 感染防止対策室 作成

「手指衛生」について

下志津病院にいらした患者さまへ



国立病院機構 下志津病院



2009年WHO「手指衛生改善のための多角的戦略」より
医療従事者が手指衛生を行うべき「5つの瞬間」



医療従事者は、上の「5つの瞬間」で手指衛生を実施する必要があります。これは2009年にWHO（世界保健機関）の「手指衛生改善のための多角的戦略」によって定められました。

私たち下志津病院では、2014年からこの多角的な戦略に基づき、全職員が手指衛生の改善に取り組んでいます。職種や役職にかかわらず、職員は「5つの瞬間」では手指を消毒または洗うよう心がけています。

私たちはいつも手をきれいに！と心がけています。

手をきれいにするために、15秒から30秒ほど、お待たせしてしまうことがあるかもしれません。

また、患者さまに触れたあと、目の前で手を消毒したりする場面があるかもしれません。これらはいずれも、全ての患者さまに清潔で安心な医療を受けて頂くために行っています。



1) 患者さまに触れる前

どこかで手についてしまった有害な病原微生物(細菌やウイルス)を患者さまにつけないために、患者さまに直接手を触れる前に、手を消毒または手洗いを行います。

2) 採血やガーゼ交換などの処置の前

お部屋に入る時に手指衛生を行っていても、先に他のことをすると手に菌などがつくことがあります。これが血管や傷等から入ることを防ぐため、処置の直前に改めて手を消毒します。

3) オムツ交換などの後

オムツの交換など、菌などを多量に含む体液に触れる可能性があるケアの後は、手袋を外した直後に手を消毒または手洗いを行います。こうすることで手に付着した菌をその場で極力減らします。

4) 患者さまに触れた後

何らかの病原微生物に感染して入院された患者さまも沢山いらっしゃいます。気付かずに病原微生物をお持ちの場合もあります。全ての患者さまに触れた後に、手指衛生を行います。

5) 患者さまの身の回り環境に触れた後

患者さまがお持ちの菌などは、ベッドやテーブルなど、患者さまの身の回りの環境でも生息していることがあります。直接患者さまに触れなくてもこれらに触れた後は手指衛生を行います。

手指衛生をしても、手についた全ての菌を完全になくすことはできません。しかしこれらのタイミングで手指衛生を行うことで、職員の手で患者さまから他へと菌などを広げてしまうリスクを最も効率良く下げることができます。もし私たちが手指衛生を忘れていましたら「手をきれいにしてください」と、ご遠慮なくお声かけください。